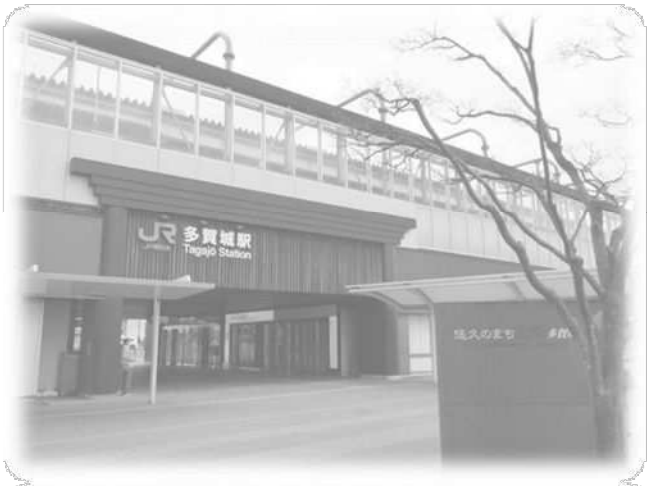
令和６年度（２０２４年度）版

地域の魅力や居場所など
中央地区の多賀城の今がわかります

多賀城市“中央版”地域カルテ



～ 目　次 ～

１．地域カルテの目的と活用方法・・・・・・・（Ｐ３）

２．高崎地区・・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ８）

３．東田中地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ１４）

４．東田中南地区・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ２０）

５．志引地区・・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ２６）

６．新田中地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ３２）

７．旭ヶ岡地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ３８）

８．留ヶ谷地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ４４）

９．伝上山地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ５０）

１０．八幡地区・・・・・・・・・・・・・・・・（Ｐ６０）

１１．学校運営協議会制度・・・・・・・・・・・（Ｐ７２）
（コミュニティ・スクール）
地域学校協働本部・・・・・・・・・・・・（Ｐ７２）

１２．多賀城市立多賀城小学校の紹介・・・・・・（Ｐ７４）

１３．多賀城市立多賀城八幡小学校の紹介・・・・（Ｐ７６）

１４．多賀城市立多賀城中学校の紹介・・・・・・（Ｐ７７）

１５．多賀城市立高崎中学校の紹介・・・・・・・（Ｐ７９）

１６．中央地区の“集まり処（どころ）”一覧 ・・・・・・（Ｐ８０）

八幡地区 『上一・下一合同夏祭りの様子』

留ヶ谷地区 『育自の会の活動様子』

地域カルテの目的と活用方法

1　地域の現状と課題

私たちが暮らす地域社会は、人口減少が進み、高齢の方が増加しています。さらに、高齢者世帯を中心に単身世帯が多くを占めるようになり、さまざまな生活課題を生むようになってきました。

例えば・・・日常生活で困りごとが増えた一人暮らし高齢者、認知症の高齢者を障害がある家族が支えている世帯、複合的な生活課題を抱えた家族や、その家計を支えるために仕事をしながら介護もしなければならない家族など、様々な状況がひろがっています。

これらの課題に対応していくためには、福祉や介護の制度・サービスをさらに充実することもひとつの解決策です。それと同時に、市民主体の地域活動及び地域福祉活動が重要になってきます。

それは、課題を抱えた人々に対する日常的で具体的な支援を市民が担うということに留まらず、地域に暮らすできるだけ**多くの市民が自分たちの地域の課題を知り、その現状を地域に発信し、そして自らも解決に向けた取組に関わること**です。

しかし、近年、町内会・自治会などの活動に参加する人が少なくなり、安定継続した地域づくりが難しくなっています。

その一方で、災害時には多くのボランティアが活躍したり、興味や関心を同じくする仲間が集まるサロン（拠り所）の活動は活発に行われたりしています。

このことから、これからは、町内会・自治会の活動とボランティア活動などが相互に協力することなど、多様な地域活動の展開が求められています。

２　「地域カルテ」の目的と活用法

各地区の地域活動、それに連なる地域福祉を進めるため、多賀城市では、地域づくり事業　地域カルテ作成に関係部署・機関（市保健福祉部社会福祉課、市総務部地域コミュニティ課及び市社会福祉協議会）と連携のもと取り組むこととしました。

この地域カルテは、地域に出向いて、地区の様々な方との話し合い（地域ヒアリング）を通じて、地域の状況を記録（カルテ）するものです。

地域カルテは、**令和４年度（２０２２年度）から西部地区から地域カルテの作成をスタートしたものです。**

この**地域カルテ（地域ヒアリング）の目的**は、

①地域の魅力、課題の共有

②居場所（子ども～シニア世代）・・・「プラットホーム」の見える化

③地域活性化の３点が主なものです。

ポイントは、福祉サイドの視点だけでなく、子育て、教育、まちづくり、防災など複眼的な視点のカルテづくりに取り組むこととしています。**作成過程のプロセス（町内会及び関係機関等との話し合い）の中で、地域共生社会に向けた『町内会長と民生委員の協力と連携』をテーマ**としています。

この地域カルテは、その地区・地域に関わる情報を地域単位ごとに、整理・掲載したものです。

この**地域カルテの活用について**は、

①地区の日頃における助け合い、支え合い及び見守りについて、他の地区の活動を参考とする場合

②地域の困っている方に支援を行おうとする際に、地域のサロン活動等を把握し、適切な支援につなげる場合

③各地区の地域資源（町内会、学校及び各種活動等）を把握し、支援につなげる場合（例　こども食堂の運営支援として食料品、日用品等を提供する）

④地域のコミュニティのため、他の地区ではどのようなイベントを開催しているか参考とする場合

⑤災害時の対応について、他の地区の活動を参考にする場合

そのほか、様々な場面での活用が考えられます。
　今後は、引き続き、西部地区、中央地区、東部地区で話し合いを通じながら、毎年データを更新（メンテナンス）します。

東田中地区 『モーニングカフェの様子』

志引地区 『秋祭りの様子』

高崎地区
地域カルテ

多賀城創建記念
TAGAJO 1300th Anniversary
724▸2024

高崎地区

高崎地区は本市のほぼ中央に位置し、多賀城の付属寺院である多賀城廃寺跡や仏教行事である万灯会の痕跡など、古代の多賀城に関わる重要な遺跡が存在しています。多賀城跡眼下に広がる住宅地として、歴史と調和した良好な市街地を形成する景観の地域です。

【参考：令和 2年度資料展 地域の文化財から引用】

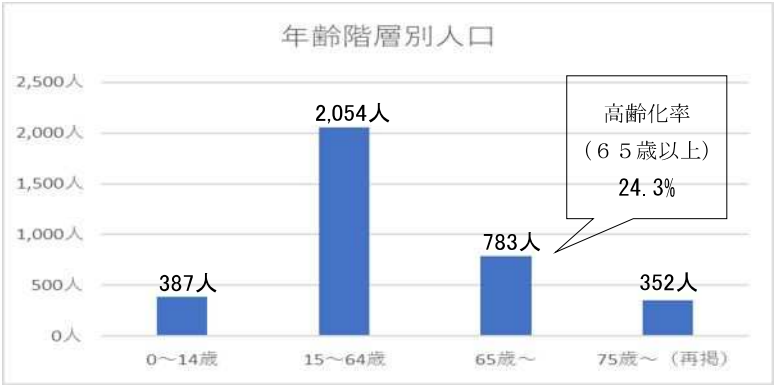
【参考：多賀城市景観計画（平成27年4月）を参照】

【多賀神社の祭事】

1月14日　　どんと祭

4月の第3日曜日　　春の祭典（神事）

11月23日　　新嘗祭



	0～14歳	15～64歳	65歳～	75歳～（再掲）	高齢化率（65歳以上）	合計
高崎地区	387人	2,054人	783人	352人	24.3%	3,224人

（令和６年５月１日現在）

【高崎地区の強みと気になるところ】

【高崎地区の強み】

多賀城廃寺跡は**緑豊か**で春には**桜がきれいに咲き、自然に恵まれています。**

「災害時は自分の身は自分で守る。。」という意識がある住民が多いです。**行政に頼らずに対応**していくところや**知恵は高崎の強み**です。

東北歴史博物館から見た桜並木

【高崎地区の気になるところ】

東北学院大学多賀城キャンパスの移転で学生が転居し、**空室のアパートが目立つ**ようになってきています。

多賀城廃寺跡は**暗くなると防犯上、恐いイメージ**があり**残念**です。地元にある特別史跡を**明るい感じしていきたい**です。

大雨が降ると**高崎3丁目の一部が浸水**しやすいです。**用水路**は**整備**されましたが**改善はしていません**。

【高崎多賀モリさくらの会】

・介護予防を目的として、「活動的な90歳」をスローガンに多賀モリ体操やストレッチ、脳トレなどを通じて楽しく健康づくりをしています。

多賀モリ体操の様子

【高崎地区の支え合い・助け合い活動】

≪高崎地区防犯協会≫

高崎地区防犯協会の皆さん

・町内の巡回パトロールや登下校時の児童の見守りをしています。

・現在、高崎地区防犯協会ではメンバーを募集しています。

≪お申し込み・お問い合わせ≫
代表者：会長 小林康幸（高崎3丁目12-32）
連絡先：368-9288／090-5186-4979

≪高崎交通安全母の会≫

・高崎交通安全母の会は、町内の巡回見回りや小中学生と挨拶を通じて、ふれあいながら見守りをする活動を行ってきました。
しかし、会員の高齢化や活動における体への負担が大きく、令和6年3月の総会において解散することを決めました。
しかしながら、やる気のある方が一定数集まれば、再開することも考えています。

【高崎地区の自主防災組織の活動状況】
～避難行動要支援者名簿の活用状況～

・避難行動要支援者避難名簿を活用して民生委員活動を行っています。

・自主防災組織について、ライフライン（電気・ガス・水道）が使えない災害において、どのような役割が適切であるか検討しています。

・震災前までは“ふれあい連絡員”という役割を持った方がいました。何かあれば民生委員と連絡を取り合い対応する仕組みでした。他の地区からもモデルにされる仕組みでした。現在は“ふれあい教室”の会員に対する訪問活動のみ続けています。

【高崎地区での協力体制や連携状況】

(1) 町内会長、町内会役員、班長、民生委員などの連携状況

・町内会の役員に民生委員は構成しておらず、役員会にも参加していません。しかしながら、町内会長が民生委員を兼務していることもあり、連携は出来ていると思っています。
またこの地区にあった連携システムをみんなで考えて、進めていきたいと考えています。

(2) 若い世代への働きかけの工夫や参加状況等

・市の子ども会育成会連合会は脱退していますが、町内会における子供会は存在し、父兄の連絡網も作って活動をしています。行事の際には、町内会と子供会が互いに協力し合いながら行っています。
なお、子供会費は徴収していません。

・若い方や家族が参加出来る行事が少なくなっています。

・ごみ集積所を新しくするなど環境整備に努め、若い世代に町内会の存在を示しています。

・高崎自治会（町内会）では、未来の地域を支える子供達を応援できる様な自治会を目指しています。

高崎地区　トピックス

令和6年の夏祭りは高崎中学校で開催しました。キッチンカーをお願いして、なるべく負担を掛けないように心掛け、今の自分達に出来る形を模索しながらの夏祭りでしたが、大盛況に終わることが出来ました。夏祭りを開催し、人が集まること・寄り合うことの大切さを改めて思う夏祭りとなりました。

高崎中学校を会場に開催

子どもたちも
大盛り上がり!!

高崎地区では東北学院大学多賀城キャンパスが移転したことで、学生が転居しアパートなどの空き部屋が目立ってきています。

以前は学生も地域住民の一員として夏祭りなどに参加しながら、地域と交流を行っていました。

キャンパスが移転した現在、高崎地区では子供夏祭りを含め、世代間の交流をどのように進めるか検討しているところです。